



ECANつうしん

No.12

2020年12月



理事長あいさつ 一つの懸念

早瀬 隆司

2020年10月26日、ホッとさせるニュースが届いた。我々日本の政府もパリ協定の理念を尊重し、2050年に温室効果ガスの排出量と吸収量とをバランスさせ、ネットゼロ社会を実現するという目標を表明したことである。しかし、私には一つの懸念がある。それは、ややもすると、二酸化炭素の量、数字だけに人々の目が奪われてしまうことである。食や環境の問題のあらゆるところで、数字が独り歩きすることにより、不必要な衝突や亀裂が生じたり、あるいは思いもよらぬ方向へ舵が切られたりする事態をいくつも目にしてきた。一つのリスクを無理やり抑えこもうとすると、リスクは他のリスクに変換されたり、代替されたりする。国連の主唱する持続可能な開発目標（SDGs）においては、我々近代社会の抱える課題やリスクは多様かつ深刻で、そのなかの一つに気候変動問題も捉えられているに過ぎない。SDGsの柱である「持続性」を考慮に入れてリスクの代替や変換を回避するために決して忘れてはいけない重要なキーワードの一つは「共生」である。子孫に付けを回さない持続性を確保するためには、生態系のバランスの中で、外部生態系との間で遺伝子のレベルまでも影響を与えあいながら生きてきた人間のこれまでの成長の歴史を振り返りながら、将来の人間の生存の基盤を確かにしていくことが必要である。「共生」という誰もが抗えない価値を頭に置いたうえで、気候変動への対応を考えていく必要がある。最近よく目にする‘nature-based solutions’という言葉には同じ思いが込められているように感じている。

今年度の活動（中間報告）

今年度は、感染症（コロナ）の所為で、「ひろがるつながる」の為の活動が大きく制約されてしまいました。多くの人を集める事業は軒並み中止になり、また国際協力プロジェクトも動きが取れなくなっていました。活動の状況は以下の通りです。会員の皆さまの協力と参加をお願いします。

- ① 経団連自然保護基金 ジャカラの住宅密集地における廃棄物循環と減量化モデル事業採択されたものの、コロナで活動ができない状態にあります。
- ② 高城台小学校を中心としたESD教育支援事業
5年生の環境教育を実施。11月4日（水）に長崎大学藤本教授から5年生に導入のた

めの出前講座を実施した。12月1日（火）に市内環境活動団体及び長崎市の担当者から「地域の身近な環境問題を学ぼう！」というテーマで出前講座を実施しました。その後児童は自主的な調査活動を行なっています。

- ③ 「環境ひろば／2070年の長崎を考える会」を原則毎月開催
以下のようなテーマで勉強会を開催してきました。

「『コロナウイルスと共存する“新しい”暮らし方』とは？」長崎大学医学部中尾准教授（8月）

「コロナの後の気候変動対策-地球は大丈夫か？」長崎大学早瀬名誉教授（9月）

「『ネットゼロ』を掲げたイギリスで起こっていること」長崎大学早瀬名誉教授（10月）

「近代性とは何か」長崎大学多文化社会学部連教授（11月25日）

- ④ 公民館のソーラーパネル設置事業

（一社）おひさまネットながさきとの協働事業で公民館の屋根にゼロ円でソーラーパネルを設置する事業を進めています。気候変動対策に貢献し、公民館活動の活動資金となり、さらに災害時には自律的な電源としても活用できる優れた仕組みです。

- ⑤ 海洋プラスチックごみ対策推進事業

長崎市からの委託で「海洋プラスチックごみ対策推進事業」を（NPO）なかさきエコネットに協力して実施しています。10月3日には、4つの市民団体と協力して、

「山（現川）のごみ清掃」、「街（出島表門橋周辺）のごみ清掃」、「川（浦上川大橋付近）のごみ清掃」、そして「海（野母崎海岸）のごみ清掃」を一斉に実施しました。



街（出島表門橋周辺）のごみ清掃



川（浦上川大橋付近）のごみ清掃

- ⑥ 茂木地区枇杷農家の「営農環境保全事業」

（NPO）ながさきエコネットは、茂木地区南部大崎地区の枇杷畑で、市民参加による営農環境保全のための仕組み作りを行っています。これに環境カウンセリング協会長崎も協力しています。この仕組みの中では、美味しい枇杷「夏だより」の木のオーナーを募集しています。市民がオーナーになって楽しみながら枇杷の畑を整備していきます。

環境を念頭に置いた次世代の市民の活動を目指して

我々の環境カウンセリング協会長崎は創設以来20年を経過しました。その間、社会は急激な変化の波の中にあり、環境問題の捉え方はその幅を大きく拡大し、『誰一人置き去りにしない』社会の構築にまで広がっています。環境カウンセリング協会は20年を経た今、自分たちの持っている持ち味や資源を活用して何ができるか、根本から考えてみたいと思っています。社会に貢献する喜びを共有する為に出来ることを考えてみます。そのため、今年度の総会で「将来構想委員会」の設置を決定しました。将来構想委員会はこれまで4回にわたる会合を持ち、「喜び」につながる活動は何か、についてアイデアを集約してきました。現時点までに出的アイデアのキーワードを下表に「赤」「青」「緑」の色付けで整理しました。しかし、環境カウンセリング協会の大切な資源である多くの会員の方の思いは未だ十分に反映されていません。会員の皆さま、是非とも今後進めていきたい活動を事務局までお知らせ下さい。

(jimmu@npo-ecan.org)

ECAN将来構想ワーキンググループ中間報告 ―今後やりたいこと―

環境に関心をもって集まった会員や仲間と、これから力を合わせてやっていきたいこと（環境活動）について、ワークショップで出た意見を下表のように整理しました。ECAN会員のみなさまの活動したい夢や想いをこの表に加えてください。（メールや電話でご連絡ください。）アイデアを広げた上で、それを基にして、次のステップではやらなければならない、つまり「必要性」の視点から議論して絞り込みたいと考えています。

将来の活動－夢、思い－					
A.環境市民活動の方向	1. 人を集める人が集まる		2. 共生社会への誘導		3. 地域循環型社会への誘導
B.そのためのアプローチ	①共感を呼ぶ働きの実施	公共性 若者 災害関係 自然観察 宿泊研修 ESD 子ども女性母親 空き家、廃校 事務所の移転	①「格差」の解消軽減	ESD こども食堂	①堆肥化技術の海外への紹介 国際
	②楽しい企画		②環境以外の社会課題への係わり	食と生命 陸上水産養殖	②海洋プラスチックのエネルギー回収 漁業者とつなぐ
			③地産地消		③定期的な海岸清掃
	③信頼の獲得	branding 発信力 透明性			④バイオマスの利活用の普及 技術コンサルティング 木質バイオマスと広葉樹 対馬の木材
					⑤地域情報共有の為の屋台
C.ECANの組織基盤	ひろく共感を呼ぶことのできる看板になる事業の確立		他の分野組織との連帯		
	事務所の移転と機能化 社会への情報発信力		特に学校と地域活動とを結ぶ仕組み こども食堂、水産養殖等との連帯の見える化		堆肥会社との連帯の見える化

十八親和銀行ふるさと振興基金の贈呈式

11月19日木曜日、環境カウンセリング協会長崎会議室にて標記振興基金の贈呈式が行われました。十八親和銀行常務執行役員松本隆行様から目録が理事長に手渡されました。私たちの持続可能な開発のための教育活動資金として20万円が支援されます。感謝と共に受け取りました。今年は高城台小学校での教育活動を中心に充当していく予定です。



令和2年度会費納入のお願い

会費・寄付募集中！環境についてともに考え活動しませんか？

環境カウンセリング協会長崎は、事業者、学術機関及び行政のパートナーシップの形成を図り、それぞれの環境への取り組みを支援することを目的に設立されました。環境に配慮した社会を根付かせ、人と自然が共に生きる心豊かな長崎を次世代に引き継いでいくために、企業、団体、学術機関、行政そして市民としてそれぞれの立場からのご支援とご協力をお願いいたします。

会員の種類	入会金	年会費
個人会員	1,000円	3,000円
学生会員		1,000円
企業会員		10,000円
団体会員		30,000円
賛助会員		一口5,000円以上

振込先

特定非営利活動法人
環境カウンセリング協会長崎
十八親和銀行 県庁支店
普通預金 0051154

ECANつうしん No.12 (2020年12月)

発行：NPO法人環境カウンセリング協会長崎
住所：長崎市五島町3-3プレジデント長崎206号
E-mail：jimu@npo-ecan.org
URL：http://www.npo-ecan.org/

TEL：095-818-3305
FAX：095-826-3693

編集 早瀬・宮原・山田